

製品安全データシート

作成:2003年 6月 4日

改訂:2016年 6月17日

1. 製品及び会社情報

整理番号 : KM053-04
製品名 : ビームアプロードスタークル粉剤5DL
会社名 : クミアイ化学工業株式会社
住所 : 東京都台東区池之端1-4-26
担当部門 : 生産資材部生産業務課
電話番号 : 03-3822-5180
FAX番号 : 03-3827-0825
緊急連絡先 : 同上
推奨用途及び使用上の制限 : 農薬

2. 危険有害性の分類

最重要危険物有害性及び影響

GHS分類

物理化学性危険性	自然発火性固体	: 区分外
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	: 区分外
	急性毒性(経皮)	: 区分外
	眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	: 区分2B
	皮膚感受性	: 区分外
	特定標的臓器/全身毒性(反復暴露)	: 区分1(呼吸器/吸入暴露)、区分2(肝臓、甲状腺、脳)
環境に対する有害性	水生環境有害性(急性)	: 区分3
	水生環境有害性(慢性)	: 区分3

上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語 危険

危険有害性情報

- ・眼刺激
- ・長期または反復暴露による臓器(呼吸器/吸入暴露)の障害
- ・長期または反復暴露による臓器(肝臓、甲状腺、脳)の障害のおそれ
- ・水生生物に有害
- ・長期的影響により水生生物に有害

注意書き

【予防策】

- ・取り扱いの際には、飲食または喫煙をしないこと。
- ・ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- ・環境への放出を避けること。
- ・取り扱い後はよく洗うこと。

【対応】

- ・眼に入った場合、直ちに清浄な流水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易にはずせる

- ・場合ははずし、その後も洗浄を続けること。
- ・眼の刺激が続く場合は、医師の診断を受けること。
- ・気分が悪い時は、医師の診断を受ける。

【廃棄】

- ・内容物、容器を法、条例に従って安全に処理する。または、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理する。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別：混合物

化学名：5-メチル-1,2,4-トリアゾロ[3,4-b]ベンゾチアゾール／一般名：トリシクラゾール

2-ターシャリ-ブチルイミノ-3-イソプロピル-5-フェニル3,4,5,6-テトラヒドロ-2h-1,3,5-チアジアジン-4-オン
／一般名：ブプロフェジン

(RS)-1-メチル-2-ニトロ-3-(テトラヒドロ-3-フリルメチル)グアニジン／一般名：ジノテフラン

成分及び含有量	トリシクラゾール	0.50%
	ジノテフラン	1.00%
	ブプロフェジン	0.35%
<その他>	含水珪酸	2.40%
	鉱物質微粉、凝集剤等	95.75%

化学式： C₉H₇N₃S／トリシクラゾール
C₁₆H₂₃N₃OS／ブプロフェジン
C₇H₁₄N₄O₃／ジノテフラン

官報公示整理番号：	化審法	1-548	含水珪酸
	安衛法	8-(4)-1339	ジノテフラン
		8-(7)-839	ブプロフェジン

C A S No.：	41814-78-2	／トリシクラゾール
	69327-76-0	／ブプロフェジン
	165252-70-0	／ジノテフラン
	14808-60-7	／含水珪酸
	7631-86-9	／含水珪酸

4. 応急措置

目に入った場合：直ちに清浄な流水で十分に洗眼し、医療措置を受ける。

皮膚に付着した場合：汚染した衣類、靴などは速やかに脱ぎ捨て、製品が付着した部分を水又はぬるま湯で十分に洗い流し、石鹼を用いて洗浄する。

吸入した場合：被災者を直ちに新鮮な空気のある場所に移動し、衣服をゆるめて深呼吸させる。多量に吸入した場合は医療措置を受ける。

飲み込んだ場合：被災者を安全な場所に移動し、直ちに医療措置を受ける。口の中に残っているものはぬぐったりして除去した後、多量の水や牛乳を与えて吐き出させる。ただし被災者に意識の無い場合はものを与えたり、吐き出させたりしてはならない。

5. 火災時の措置

消火方法：初期の火災には、粉末、不活性ガス消火器、乾燥砂などを用いる。大規模火災には、泡消火剤を用いて空気を遮断する。

消火剤：水、強化液、泡、不活性ガス、ハロゲン化物、消火粉末を放射する消火器

消火活動上の注意：燃焼又は高温により有毒なガスが生成するおそれがあるので保護具を着用する。消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。

6. 漏出時の措置

作業者に対する注意：屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。作業の際には保護具（暴露防止措置欄参照）を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵を吸入しないようにする。風上から作業し、風下の人を退避させる。

環境影響に対する注意：流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

流出物の処理に対する注意：飛散したものを掃き集めて、密閉できる空容器に回収する。真空掃除機で吸い取るなど粉塵が飛散しない方法で取り除く。大量の場合は、水で湿らせる等により飛散を防止する。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い上の注意：取り扱いは換気のよい場所で行い、粉塵、ガスのこもり易い場所では取り扱わない。漏れ、あふれ、飛散がないようにし、みだりに粉塵を発生させない。

火災・爆発の防止：通常の保管方法で問題無し。

保管上の注意：直射日光が当たらない乾燥した冷暗所に保管し、異種物質の混入を避け、火気、熱源から隔離する。

8. 暴露防止措置

管理濃度：珪物性粉じん $E = 3.0 / (1.19Q + 1)$

E：管理濃度(mg/m³) Q：当該粉じんの遊離けい酸含有率(%)

(作業環境評価基準 平成21年厚生労働省告示第195号 平成21年3月31日)

許容濃度：トリシクラゾール 3.0mg/m³ 日本産業衛生学会(2009年度)

ブプロフェジン 2mg/m³ 日本産業衛生学会勧告値(2009年度)

シリカ(含水珪酸) TLV-TWA 0.025mg/m³ ACGIH(2010年度)

設備対策：取り扱いについては、密閉された装置、機器を使用し、局所排気装置を併用する。

保護具 呼吸用保護具：防塵マスク

保護手袋：ゴム手袋

保護眼鏡：側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型

保護衣：作業着、帽子、保護服

9. 物理・化学的性質

外観等	:	類白色粉末
pH (1% 懸濁液)	:	8.0~10.0/20℃
引火点	:	データなし
自然発火性	:	常温の空気と接触しても自然発火しない

10. 安定性及び反応性

安定性	:	通常の実験条件では安定
危険有害反応可能性	:	知られていない
危険有害な分解生成物	:	知られていない

11. 有害性情報

急性毒性(経口)	:	ラット(♀) LD ₅₀ >2000 mg/kg 2000mg投与で死亡例や中毒症状無し
急性毒性(経皮)	:	ラット(♂ ♀) LD ₅₀ >2000 mg/kg 2000mg投与で死亡例や中毒症状無し
皮膚腐食性/刺激性	:	ウサギ 刺激性なし
眼に対する重篤な損傷/刺激性	:	ウサギ 軽度刺激性
皮膚感作性	:	モルモット 感作性なし
特定標的臓器/全身毒性(反復暴露)	:	区分1(呼吸器/吸入暴露)に分類される含有珪酸および、区分2(肝臓、甲状腺、脳)に分類されるブプロフェジンをそれぞれカットオフ値1.0%以上含有することから区分1、区分2とした。毒性未知成分量96.1%。

1 2. 環境影響情報

生態毒性 魚	: (コイ)LC ₅₀	>1000 mg/l (96時間)
甲殻類	: (オオミジンコ)EC ₅₀	14 mg/l (48時間)
藻類*	: ErC ₅₀	>640 mg/l (24-72時間) (*Pseudokirchneriella subcapitata)
残留性/分解性	: データなし	
生体蓄積性	: データなし	
土壤中の移動性	: データなし	
その他	: 蚕に対して長期間毒性があるので、散布された薬剤が飛散し、桑に付着するおそれのある場所では使用しない。ミツバチに対して毒性があるので、ミツバチの箱巣及びその周辺にかからないようにする。養蜂がおこなわれている地区では周辺への飛散に注意する。 散布薬剤の飛散により、野菜類の幼苗及びなしに薬害を生ずる恐れがある。	

1 3. 廃棄上の注意

都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。洗浄水等は、凝集沈殿、活性汚泥などの処理により清浄にしてから排出する。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。

1 4. 輸送上の注意

輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。車輛、船舶には保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を備える他、緊急時の処理に必要な消火器、工具などを備えておく。

国連分類	: 非該当
国連番号	: 非該当

1 5. 適用法令

農薬取締法	: 登録番号 第22064号
消防法	: 非該当
労働安全衛生法	: 第18条の2(通知対象物):ブプロフェジン(政令番号334) 第18条の2(通知対象物質):含水珪酸(政令番号312) 粉塵障害防止規則
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	: 第一種指定物質 357号 ブプロフェジン
毒物劇物取締法	: 非該当

1 6. その他

記載内容は、現時点で入手できた資料・情報に基づいて作成しておりますが、危険・有害性等に関して、いかなる保証をなすものではありません。注意事項については通常の取り扱いを対象としたものであり、特別な取り扱いをする場合は、用途・用法に適した安全対策を講じて下さい。危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取り扱いには十分注意して下さい。
使用に当たっては、ラベルの注意事項を良く読んで下さい。

- 引用文献: 1) J I S Z 7 2 5 2 : 2 0 0 9 G H Sに基づく化学物質等の分類方法
2) G H S 対応ガイドライン 製品安全性データシートの作成指針(改訂2版)
平成20年10月 社団法人 日本化学工業協会
3) 農薬中毒の症状と治療法 第13版 平成22年4月 農薬工業会

作成部署以外の連絡先

(財団法人)日本中毒情報センター

大 阪(年中無休、24時間)	一般市民向け相談電話(無料)	072-727-2499
	医療機関専用有料電話(1件2,000円)	072-726-9923

つくば(毎日9時～21時)	一般市民向け相談電話(無料)	029-852-9999
	医療機関専用有料電話(1件2,000円)	029-851-9999

※ ただし、上記の何れも通話料は相談者の負担となります。